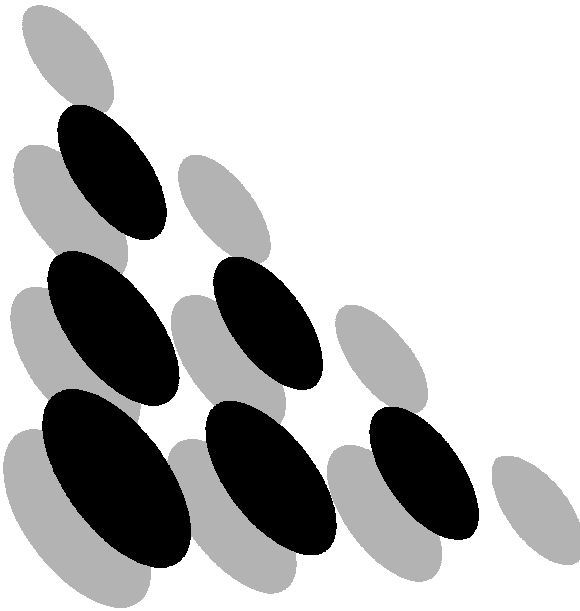


FUJITSU FM SERIES PERSONAL COMPUTER

FMVシリーズ

IDE-RAIDカード

取扱説明書



本書の構成

■第 1 章 本製品の特徴

IDE-RAIDモデルの概要と特徴を説明します。

■第 2 章 FastBuild Utility

BIOS上のRAID構成ツール「FastBuild Utility」について説明します。



■第 3 章 Windows 環境での使用

Windows環境でのRAID管理ツール「FastCheck Monitoring Utility」の使用
方法、その他注意点などを説明します。

■第 4 章 ハードディスクの交換


ハードディスクに故障が検出された場合のハードディスク交換方法に
ついて説明します。

本書では、以下の表記・記号を使用しています。


表記	意味
[Enter]	[]で囲んだ英文は、キーボード上のキーを示します。
[Alt]+[M]	複数のキーを同時に押すことを示します。
	本製品を取り扱う上でのポイント事項です。
	本製品を取り扱う上での重要事項です。これを無視して取り扱うと データの損害を引き起こす可能性があります。

安全上のご注意



ご使用の前に、この「安全上のご注意」とマニュアル類をよくお読みになり、内容をよくご理解のうえ、正しく製品をご使用ください。
なお、本説明書では安全上の注意点を、以下のマークとともに表示しています。

**警告**

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。

**注意**

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

マーク	内容
 警告	■本製品を改造しないでください。火災・感電の原因となります。
	■近くで雷が発生した時は、サーバ本体の電源コードや本カードの外部接続コードを抜いてください。そのまま使用すると、雷によっては機器破損、火災の原因となります。
	■本カードをサーバ本体に着脱する際には、安全のためサーバ本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後で行ってください。電源をいれたままカードの着脱を行うと、装置の故障・発煙などが起こる可能性があり、また感電の原因となります。
 注意	■機器を移動する場合は、必ず機器の外部に接続されているコード類（本製品に接続されているコード類を含む）をすべてはずしてください。コード類が傷つき火災・感電の原因となること、機器が落ちたり倒れたりしてケガの原因となることがあります。
	■ご使用にならない場合は、静電気防止のため付属のカード袋へ入れて保管してください。

第 1 章 本製品の特徴

本章では、IDE-RAID モデルの概要および特徴について説明します。

1.1 概要

IDE-RAID モデルでは、本体の PCI スロットに搭載した IDE RAID カードにより、接続された IDE ハードディスクをアレイ構成にします。本モデルでは、RAID1(ミラーリング)のアレイ構成をとることによりハードディスク上のデータを冗長化し、1 台のハードディスクに故障が発生しても継続してシステムを運用可能とするなど信頼性を向上させています。

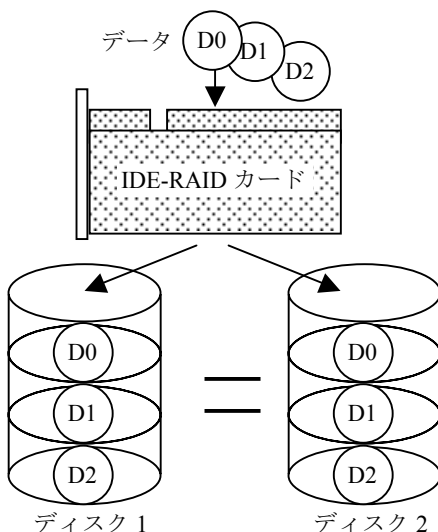
概略仕様を以下に示します。

名称	IDE RAID カード
カード種類	PCI カード
ホストインターフェース	PCI 33MHz/5V (PCI 2.1 準拠)
I/O インターフェース	Ultra ATA/100 (100MB/s)
I/O チャンネル数	2
接続ディスク数	2 台 (チャンネルあたり 1 台)
サポート RAID レベル	RAID1 (ミラーリング)
サイズ	カード長 : 175mm, カード高 : 107mm

1.2 ディスクアレイ (RAID)

ディスクアレイまたは**RAID(Redundant Array of Independent Disks)**は、RAIDコントローラと複数のハードディスクを用いることによって、単体ハードディスクよりも性能および信頼性を向上させるシステムです。各ハードディスクに対するアクセスはRAIDコントローラによって制御されます。また、1台のハードディスクに故障が発生しても、データは失われず継続してシステムを運用することができる、といったいわゆる**冗長性**を持たせることができます。

ディスクアレイにはドライブへのデータ格納方式によりいくつかの種類があります。本モデルでは、全く同じデータを2台のハードディスクに二重化して書込む**RAID1(ミラーリング)**のみをサポートします。これによって1台のハードディスクが故障しても、もう一方のハードディスクのデータで継続してシステムを運用することができます。しかしながら、ミラーリングによる冗長性で高信頼性を実現するために、実際に使用できる容量はハードディスク1台分の容量となります。



- ❗ 冗長性の有無にかかわらず、万に備えてデータのバックアップはできるだけ頻繁に行ってください。
- ❗ 正しい電源切断手順を使用せずに本体電源を切断した場合には、データは保証されません。
- ❗ ディスクアレイは、指定された同容量・同種類の2台のハードディスクで構成してください。

1.3 ディスクアレイの状態

ディスクアレイには以下の3種類の状態があります。

■ **Functional(正常)**


ディスクアレイが正常に稼動している状態です。

■ **Critical(危機)**

ディスクアレイが1台のハードディスクの故障により、冗長性のない状態で稼動している状態です。故障したハードディスクをできるだけ早く交換し、ディスクアレイを Functional 状態に修復する再構築作業(Rebuild)を行う必要があります。

■ **Offline(オフライン)**


ディスクアレイが稼動していない状態です。ディスクアレイ中の2台のハードディスクがともに故障した場合に発生します。この場合、ディスクアレイ中のデータは保証されません。

 ディスクアレイの状態が Critical または Offline になった場合、パソコン本体のブザーを鳴らし異常発生を知らせます(FastCheck Monitoring Utility が動作している場合)。(「3.1.3 オプションメニュー」参照)

1.4 ディスクアレイの作成と初期化

ディスクアレイを使用する場合、ディスクアレイの作成、およびディスクアレイの初期化処理を行う必要があります。ディスクアレイの作成・初期化手順は「2.2 ディスクアレイの作成・初期化」を参照してください。

なお、ミラーリング構成のディスクアレイの初期化処理は、一方のハードディスクから別のハードディスクに全データを複写する二重化処理によって行います。二重化処理については「1.6 二重化処理」を参照してください。

 ディスクアレイの初期化は必ず行ってください。初期化を行わないと OS 上から認識されない場合や、あるいは OS がハングアップする場合があります。

1.5 ディスクアレイの修復 (Rebuild)

ディスクアレイ中の 1 台のハードディスクが故障しても、ディスクアレイは **Critical**(非冗長)状態で稼動しますが、ディスクアレイ中のもう 1 台のハードディスクが故障すると、ディスクアレイは **Offline** 状態になってしまいます。したがって、できるだけ早期に **Critical** 状態のディスクアレイを **Functional** 状態に修復する必要があります。

ディスクアレイの修復を行うには、故障したハードディスクの交換と、**再構築 (Rebuild)**と呼ばれるハードディスクを再度、冗長化する作業が必要になります。

故障したハードディスクを新しいハードディスクと交換する手順については、「4.1 ハードディスクの交換手順」を参照してください。

ミラーリング構成のディスクアレイの再構築は、正常なハードディスクから交換したハードディスクに全てのデータを複写する二重化処理によって行います。再構築手順については「2.3 ディスクアレイの再構築」、二重化処理については「1.6 二重化処理」を参照してください。

なお、ハードディスクの交換および再構築が完了するまでは、ディスクアレイは **Critical** 状態で稼動し続けます。

1.6 二重化処理

ディスクアレイの初期化や修復を行う場合には、一方のディスクから別のディスクに全データを複写する二重化処理を行います。二重化処理には以下の 2 通りの方法があります。

1. FastBuild Utility による二重化処理

FastBuild Utility(第 2 章参照)により、ディスクアレイを使用する前にハードディスクの二重化を行う方法です。ハードディスク全領域を複写するため、ある程度の時間が必要です。

2. バックグラウンド二重化処理

ディスクアレイの二重化処理をホストからの通常 I/O 処理と並行して実施する方法です。FastBuild Utility 上での二重化処理中に、パソコン本体の再起動、または電源切断によって二重化処理を中断すると、OS 起動後に自動的にバックグラウンドでの二重化処理が実施されます。FastBuild Utility 上での二重化処理の終了を待つ必要はなくなりますが、以下の点に注意してください。

☛ パソコン本体が起動し、OS 上にてデバイスドライバが起動された時にバックグラウンド二重化処理が開始(再開)されます。

☛ バックグラウンド二重化処理完了前に OS をシャットダウンすると、二重化処理は中断されます。次回再開時(OS 再起動後、デバイスドライバが起動された時)に中断したブロックからバックグラウンド二重化処理を継続します。

☛ バックグラウンド二重化処理中は、Functional 状態のディスクアレイと比較して十分な I/O 処理性能が得られません。特にフォーマット性能が非常に低下しますのでご注意ください。
バックグラウンド二重化処理中には、OS 上の FastCheck Monitoring Utility の画面上に「再構築中」と表示されます。

☛ バックグラウンド二重化処理中は、ディスクアレイが Critical 状態であり冗長ではありません。複写元のハードディスクが故障すると、ディスクアレイは Offline 状態となりディスクアレイへアクセス不能になるとともにデータが失われます。

第 2 章 FastBuild Utility

本章では、IDE RAID カードの BIOS 上で動作する FastBuild Utility について説明します。FastBuild Utility は、ディスクアレイ構成の作成・変更などを行うための基本的なユーティリティです。この章をよくお読みになられた上でご使用ください。

2.1 FastBuild Utility の起動

パソコン本体の電源を入れた後、以下の画面が表示されている時に[Ctrl]+[F]キーを押すと、FastBuild Utility を起動できます。

FastTrak100 (tm) BIOS Version x.xx (Build xx)
(c) 1995-2000 Promise Technology, Inc. All rights reserved.

...

Press <Ctrl-F> to enter FastBuild(tm) Utility...

FastBuild Utility が正常に起動すると図 2-1 の Main Menu が表示されます。

[Main Menu]

Auto Setup..... [1]
View Drive Assignments [2]
Define Array [3]
Delete Array..... [4]
Rebuild Array..... [5]
Controller Configuration [6]

図 2-1 : Main Menu

ハードディスクが 1 台も認識できない場合、以下のメッセージが表示されます。本体の電源を切断し、ハードディスクおよび接続ケーブルを確認してください。

**No Disk is found. Please check the
power and data cable connection.
<Press Any Key to Exit>**


■Main Menu でのキー操作

- ・ 数字(1,2,3,4,5,6)キーを押すと各メニュー項目を選択できます。
- ・ [ESC]キーを押すと FastBuild Utility を終了できます。(「2.7 FastBuild Utility の終了」参照)

2.2 ディスクアレイの作成・初期化 (Auto Setup)

ディスクアレイを使用する場合、あらかじめディスクアレイを作成し初期化を行う必要があります。以下の手順に従って作業を行ってください。

なお、ディスクアレイの初期化は、一方のハードディスクから他方のハードディスクにデータを複写する二重化処理によって行います。

 **ディスクアレイを作成・初期化する方法として、より細かな設定が可能な「3. Define Array」もあります。**

- ① FastBuild Utility の Main Menu から「1. Auto Setup」を選択します。
- ② 既に全てのハードディスクがディスクアレイとして構成されている場合、下記メッセージが表示されます。この場合、ディスクアレイを新規に作成することはできません。何かキーを押して Main Menu に戻り「2. View Drive Assignment」でディスクアレイの構成を確認してください。(「2.4 ディスクアレイの構成表示」参照)

No Available Disks!
Any Key to Continue

- ③ ディスクアレイとして構成可能なハードディスクが存在する場合、図 2-2 の表示になります。

[Auto Setup Options Menu]	
Optimize Array for :	Performance
Typical Application to use :	DESKTOP
[Array Setup Configuration]	
ModeStripe	
Spare Drive.....0	
Drive(s) Used in Array.....2	
Array Disk Capacity (size in MB).....xxxxx	

図 2-2 : Auto Setup (起動時)

- ④ 「Drive(s) Used in Array」に接続されたハードディスクの数が表示されます。「2」と表示されていない場合、ハードディスクが正しく接続されていないか、または接続されたハードディスクに異常がある可能性があります。[ESC]キーを押して Main Menu に戻り「2. View Drive Assignment」でハードディスクの状態を確認してください。(「2.4 ディスクアレイの構成表示」参照)
- ⑤ [↑][↓]キーで「Optimize Array for」にカーソルを合わせ、[Security]と表示されるまで[Space]キー、または[←][→]キーを押します。
- ⑥ 正しく選択した場合、図 2-3 の表示になります。

[Auto Setup Options Menu]	
Optimize Array for :	Security
Typical Application to use :	Not Available
[Array Setup Configuration]	
Mode	Mirror
Spare Drive.....	0
Drive(s) Used in Array.....	2
Array Disk Capacity (size in MB).....	XXXXXX

図 2-3 : Auto Setup (設定後)

- ⑦ [Ctrl]+[Y]キーを押します。
- ⑧ 以下のメッセージが表示され、データの二重化(ディスクアレイの初期化)を行うかどうかを尋ねてきますので[Y]キーを押してください。

<p>Do you want the disk image to be duplicated to another? (Yes/No)</p> <p>Y - Create and Duplicate</p> <p>N - Create Only</p>

- ❗ データの二重化(ディスクアレイの初期化)は必ず行ってください。二重化を行わないと、OS 上から正しく認識できない場合や、一貫性チェックでエラーが検出される場合があります。

- ⑨ 以下のようにディスクアレイを構成するドライブの一覧が表示され、データ複写元のハードディスクを尋ねてきます。

[Please Select A Source Disk]		
Channel:ID	Drive Model	Capacity (MB)
1:	Mas FUJITSU MPG3409AT	xxxxx
2:	Mas FUJITSU MPG3409AT	xxxxx

- ⑩ 最上段(Channel=1, ID=Master)のハードディスクに[↑][↓]キーでカーソルを合わせ、[Enter]を押して複写元ハードディスクを選択します。
- ⑪ 二重化処理開始の確認メッセージが以下のように表示されます。
[Y]キーを押すと二重化処理を開始します。

Start to duplicate the image...
Do you want to continue? (Yes/No)
Y - Continue, N - Abort

- ⑫ 二重化処理中は以下のように処理状況が表示されます。

Please Wait While Duplicating The Image

■■□□□□□□□□□□□□□□ **12% Completed**

- ⑬ 二重化処理が終了すると以下のメッセージが表示されます。
何かキーを押すとパソコン本体を再起動します。

Disk duplication completed... Any Key to Reboot the System!

- ⑫の二重化処理中に[Ctrl]+[Alt]+[Delete]キーを押して強制的にパソコン本体を再起動すると、OS 起動後にバックグラウンドで二重化(初期化)処理を継続できます。(「1.6 二重化処理」参照)

2.3 ディスクアレイの再構築 (Rebuild Array)

ハードディスクが故障した場合、「4.1 ハードディスクの交換手順」に従って故障したハードディスクを交換後、ディスクアレイの再構築を行う必要があります（「1.5 ディスクアレイの修復」参照）。ディスクアレイの再構築は、以下の手順に従って作業を行ってください。

なお、ディスクアレイの再構築は、既存のハードディスクから新規のハードディスクにデータを複写する二重化処理により行います。

- ① 故障したハードディスクを交換後、本体の電源を入れると起動時に以下の画面が表示されます。

ID	MODE	SIZE	TRACK-MAPPING	STATUS
1 *	1x2 Mirror	xxxxxM	xxxx/xxx/xx	Critical

Problem is detected with Array : 1

...

**Press <Ctrl-F> to enter FastBuild (tm) Utility or
Press <ESC> to continue booting...**

- ② [Ctrl]+[F]キーを押して FastBuild Utility を起動します。
- ③ Main Menu の「5. Rebuild Array」を選択します。
- ④ 図 2-4 のようにディスクアレイの状態が一覧表示されます。

[Rebuild Array Menu]				
Array No	RAID Mode	Total Drv	Capacity(MB)	Status
Array 1	Mirror	2	xxxxx	Critical
Array 2	---	---	----	---
Array 3	---	---	----	---
Array 4	---	---	----	---

図2-4 : Rebuild

- ⑤ 「Array 1」の上で[Enter]キーを押します。

- ⑥ 以下のメッセージが表示された場合、交換したハードディスクが正しく動作していない可能性があります。本体電源を切断後、ハードディスクの接続等を確認してください。

**Spare disk is not found or has less
capacity than the source disk!
<Press Any Key to Continue>**

- ⑦ 再構築先のハードディスクを選択して[Enter]キーを押してください。
再構築先ハードディスクへの複写、すなわち二重化処理が開始されます。
- ⑧ 二重化処理中は以下のように処理状況が表示されます。

Please Wait While Duplicating The Image
■ ■ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ 12% Completed

- ⑨ 二重化処理が終了すると以下のメッセージが表示されます。
何かのキーを押すとパソコン本体を再起動します。

**Array was recovered....
<Press Any Key to REBOOT>**

- ☞ ⑧の複写中に[Ctrl]+[Alt]+[Delete]キーを押して強制的にパソコン本体を再起動すると、OS 起動後にバックグラウンドで二重化(再構築)処理を継続できます。(「1.6 二重化処理」参照)

- ⚠ 再構築元ハードディスクから正常にデータを読み出せない場合(ECC によりエラー訂正不可能な場合など)、下記画面を表示しディスクアレイの再構築処理を中断します。
この場合、再構築元ハードディスク内のデータが保証できないため、一旦ディスクアレイを再初期化後、添付リカバリ CD から再インストールを行い、バックアップデータを復元する必要があります。

WARNING:
Operation aborted because FastBuild encountered an error. The device which caused the failure is connected as Channel X ID 0 on the FastTrak. The array is in CRITICAL state. Please retry using FastCheck utility to recover all data. Reboot the system by pressing the ENTER KEY.

2.4 ディスクアレイの構成表示

(View Drive Assignments)

現在構成されているディスクアレイ情報を表示します。

Main Menu の「2 View Drive Assignments」を選択すると図 2-5 の画面を表示します。

[View Drives Assignments]				
Channel:ID	Drive Model	Capacity (MB)	Assignment	Mode
1:Mas	FUJITSU MPG3409AT	xxxxx	Array 1	U5
2:Mas	FUJITSU MPG3409AT	xxxxx	Array 1	U5

図2-5：View Drive Assignments

各項目は以下の内容を示しています。

Channel	ハードディスクが接続されているチャンネル番号
ID	ハードディスクの接続先が Master 側か Slave 側かを表示 ※本モデルでは Master 側への接続のみ
Drive Model	ハードディスクのベンダー名、製品名
Capacity	ハードディスクの容量 (MB 単位)
Assignment	ハードディスクが割り当てられたディスクアレイ番号 ディスクアレイに割り当てられていない場合、Free と表示
Mode	ハードディスクの転送モード ※本モデルでは Ultra DMA/100 のため U5 と表示

表示を確認後、[ESC]キーを押すと Main Menu に戻ります。

2.5 ディスクアレイの削除 (Delete Array)

現在構成されているディスクアレイを削除します。以下の手順に従って作業を行ってください。

① Main Menu の「4. Delete Array」を選択すると、図 2-6 の画面を表示します。

[Delete Array Menu]				
Array No	RAID Mode	Total Dev	Capacity(MB)	Status
Array 1	Mirror	2	xxxxx	Functional
Array 2	----	----	----	----
Array 3	----	----	----	----
Array 4	----	----	----	----

図2-6 : Delete Array

② [↑][↓]キーを押して削除したいディスクアレイにカーソルを移動後、[Del]キーを押してください。

③ 以下の確認メッセージが表示されます。

Are you sure you want to delete this array?
Press Ctrl-Y to Delete, or others to abort..

- ・ [Ctrl]+[Y]キーを押すと、選択したディスクアレイを削除します。
- ・ [Ctrl]+[Y]キー以外を押すと、ディスクアレイの削除を中止します。

④ [ESC]キーを押して Main Menu に戻ります。

2.6 その他の設定 (Controller Configuration)

IDE RAID カードの設定表示・変更を行います。

Main Menu の「6. Controller Configuration」を選択すると図 2-7 の画面を表示します。

[Adapter Configuration – Options]		
Halt On Error :		Enabled
[System Resource Configuration]		
Channel 1	Interrupt : x	I/O Port : xxxx
Channel 2	Interrupt : x	I/O Port : xxxx

図2-7 : Controller Configuration

各項目は以下の内容を示しています。

■ Adapter Configuration

● Halt On Error

起動時にディスクアレイの異常を検出した場合、起動処理を一時停止するかどうかを設定します。[Space]キー、または[←][→]キーを押すと設定を変更できます。(デフォルト: Enabled)

Enabled :

ディスクアレイが Functional 状態でない場合、起動時に下記メッセージを表示し停止します。

ID	MODE	SIZE	TRACK-MAPPING	STATUS
1 *	1x2 Mirror	xxxxxM	xxxx/xxx/xx	Critical

Problem is detected with Array : 1

...

Press <Ctrl-F> to enter FastBuild (tm) Utility or

Press <ESC> to continue booting...

- ・[Ctrl]+[F]キーを押すと FastBuild Utility を起動します。
- ・[Esc]キーを押すと起動処理を継続します。

Disabled :

ディスクアレイが Functional 状態でない場合、起動時に上記メッセージを約 10 秒間表示し、その後起動処理を継続します。

● System Resource Configuration

Interrupt

各チャネルに割り当てられた IRQ を示します。

I/O Port

各チャネルに割り当てられた I/O Port アドレスを示します。

2.7 FastBuild Utility の終了

Main Menu から[ESC]キーを押すと、FastBuild Utility を終了できます。
以下のメッセージが表示されます。

System is going to REBOOT!
Are You Sure?
Y - Reboot / Any Key - Back

- ・ [Y]キーを押すと、FastBuild Utility を終了しシステムを再起動します。
- ・ [Y]キー以外を押すと、Main Menu に戻ります。

第 3 章 Windows 環境での使用

本章では、Windows 環境でディスクアレイの状態を表示するとともに異常発生時にエラー通知を行うための、IDE RAID ユーティリティの使用方法を説明します。

本ユーティリティは以下のソフトウェアで構成されています。

1. FastCheck Monitoring Utility
2. FastTrak Service

❗ **本製品を正しく運用するために、IDE RAID ユーティリティを必ずインストールしてください。**

❗ **Windows NT4.0 でお使いになる場合、Service Pack 6a 以降が必要です。**

❗ **Windows 2000 でお使いになる場合、Service Pack 1 以降が必要です。
また、ACPI-S3 省電力モードでのスタンバイ動作には対応していません。**

3.1 FastCheck Monitoring Utility

FastCheck Monitoring Utility (以下 FastCheck)は、OS 上でディスクアレイの管理を行うためのソフトウェアです。FastCheck はディスクアレイやハードディスク情報の表示、ディスクアレイ同期化・再構築などの機能を持っています。

FastCheck はログオン時に起動され、通常はタスクトレイ上にアイコン化されています。このアイコンをダブルクリックすることで画面上に表示されます。

❗ **特に必要のない限り、FastCheck を終了させないでください。**

3.1.1 アレイメニュー

アレイメニューでは、構成されているディスクアレイの構成・状態が図3-1のように表示されます。

また、ディスクアレイの一貫性チェック(シンクロナイズ)・再構築(リビルド)の実行などの指示が行えます。



図3-1：アレイメニュー

■ 構成表示画面(左側)

ディスクアレイおよびディスクアレイを構成するハードディスクがツリー上に表示されます。またハードディスクがオフライン状態の場合は、ハードディスクが「？」付のアイコンで表示されます。

■ 詳細表示画面(右側)

構成表示画面の各ディスクアレイ、ハードディスクのアイコンを左クリックすると、詳細表示画面に以下の情報が表示されます。

● ディスクアレイ

RAIDモード： ディスクアレイの種類

マッピング： ディスクアレイの論理的なシリンダ／ヘッド／セクタ数

サイズ： ディスクアレイの容量(GB単位)

状態： ディスクアレイの状態

正常 正常稼働中のディスクアレイ

危機	冗長性のない状態で稼働中のディスクアレイ (初期化・再構築中、またはアレイを構成するハードディスクの1台が故障した場合に表示されます)
オフライン	稼働していないディスクアレイ (アレイを構成する2台のハードディスクが故障した場合に表示されます)

● ハードディスク

状態：	ハードディスクの状態
正常	正常稼働中のハードディスク
正常(再構築中)	初期化または再構築中のハードディスク
オフライン	異常状態で稼働していないハードディスク
フリー	アレイ構成に含まれていないハードディスク
不明	状態が不明なハードディスク (ハードディスクにアクセスできない場合に表示されます)

S.M.A.R.T状態：

	S.M.A.R.T機能によるハードディスクの診断結果
サイズ：	ハードディスクサイズ(GB単位)
場所：	ハードディスクの接続されている、コントローラ番号、チャネル番号、ID(Master/Slave)
マッピング：	ハードディスクの論理的なシリンダ／ヘッド／セクタ数
タイミング：	ハードディスクの転送モード

■ ポップアップメニュー

構成表示画面上でディスクアレイのアイコンを右クリックすると、ポップアップメニューから以下の操作を実行できます。

常に最前面に表示：

	FastCheckを常に最前面に表示するかどうかを設定します
最小化：	FastCheckをタスクトレイにアイコン化します
シンクロナイズ：	ディスクアレイの一貫性チェックを実行します
リビルド：	再構築ウィザードを起動します
概要：	FastCheckのバージョンを表示します
終了：	FastCheckを終了します

3.1.2 コントローラメニュー

コントローラメニューでは、ディスクアレイの物理的構成と、コントローラ・チャネル・ドライブの状態が図3-2のように表示されます。

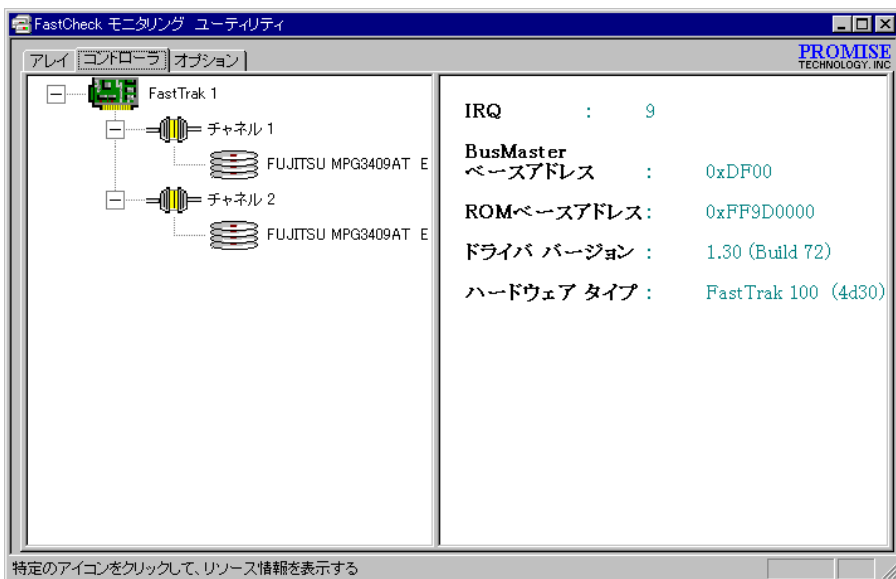


図3-2：コントローラメニュー

■ 構成表示画面 (左側)

コントローラ、チャネル、ドライブがツリー状に表示されます。ドライブがオフライン状態の場合は、ドライブが「×」付のアイコンで表示されます。

■ 詳細表示画面 (右側)

構成表示画面上で各コントローラ、チャネル、ハードディスクのアイコンを左クリックすると、詳細表示画面に以下の情報が表示されます。

● コントローラ

IRQ : RAIDコントローラに割り当てられたIRQ

Bus Masterベースアドレス :

RAIDコントローラに割り当てられたメモリアドレス

ROMベースアドレス :

BIOS ROMが割り当てられたメモリアドレス

ドライバ バージョン :

デバイスドライバのバージョン

ハードウェア タイプ :

使用中のIDE RAIDカード名

● **チャンネル**

ベースIOアドレス：

チャンネルに割り当てられたI/Oアドレス

● **ハードディスク**

状態： ハードディスクの状態

正常 正常稼働中のハードディスク

正常(再構築中)

初期化または再構築中のハードディスク

オフライン 異常状態で稼働していないハードディスク

フリー アレイ構成に含まれていないハードディスク

不明 状態が不明なハードディスク

(ハードディスクにアクセスできない場合に表示されます)

サイズ： ハードディスクの容量(GB単位)

場所： ハードディスクが接続されている、コントローラ番号、チャンネル番号、ID(Master/Slave)

マッピング： ハードディスクの論理的なシリンダ／ヘッド／セクタ数

タイミング： ハードディスクの転送モード

3.1.3 オプションメニュー

オプションメニューでは、図3-3のように動作環境の設定を変更できます。設定変更後、[適用]ボタンをクリックすると設定が有効になります。[リセット]ボタンをクリックすると変更した設定を元に戻すことができます。

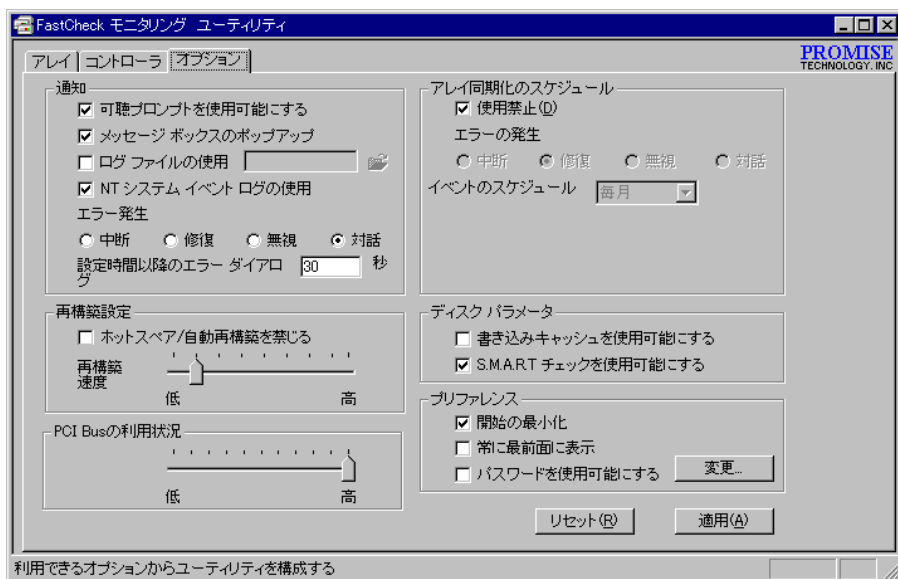


図3-3：オプションメニュー

■通知

可聴プロンプトを使用可能にする：(デフォルト：チェック有)

ディスクアレイが正常状態でない場合、ブザーを鳴らします。

メッセージ ボックスのポップアップ：(デフォルト：チェック有)

ディスクアレイの状態に変化があった場合、メッセージボックスを表示して通知します。

なお、情報レベルのメッセージについては、表示後10秒でメッセージボックスを自動的に閉じます。

ログ ファイルの使用：(デフォルト：チェック無)

ディスクアレイの状態に変化があった場合、指定したファイルに記録します。

NT システム イベント ログの使用：(デフォルト：チェック有)

ディスクアレイの状態に変化があった場合、OSのイベントログに記録します。

エラー発生 : (デフォルト: 対話)

ディスクアレイの一貫性チェック(シンクロナイズ)/再構築(リビルド)処理中にエラーを検出した場合の処置を選択します。

中断	エラーを検出した場合、処理を中断します
修復	検出されたエラーを修復して、処理を続行します
無視	検出されたエラーを無視して、処理を続行します
対話	エラーを検出した場合、ユーザに対応を尋ねます

設定時間以降のエラー ダイアログ : (デフォルト: 30秒)

ディスクアレイの一貫性チェック(シンクロナイズ)/再構築(リビルド)処理中にエラーを検出した場合に、ユーザに対応を尋ねる待ち時間を設定します。設定時間経過後、上記の「エラー発生」設定で指定した処置が行われた後、処理を継続します。設定可能な値は1-9999秒で、9999の場合はユーザが選択するまで次に進みません。

■再構築設定

ホットスペア/自動再構築を禁じる : (デフォルト: チェック無)

ホットスペア機能(本モデルでは未サポート)、自動再構築機能を無効にします。

再構築速度 : (デフォルト: 左から2番目)

通常のI/Oアクセスに対する、初期化/再構築処理のI/Oアクセスを行う割合を設定します。

■PCI Busの利用状況 : (デフォルト: 高)

IDE RAIDカードがPCIバスを占有する比率を設定します。

■アレイ同期化のスケジュール


使用禁止 : (デフォルト: チェック無)

ディスクアレイ同期化を定期的に実行しません

イベントのスケジュール :

ディスクアレイ同期化の実行間隔を設定します

毎月	1月に1回、指定日・指定時刻に実行します
毎週	1週に1回、指定曜日・指定時刻に実行します
毎日	1日に1回、指定時刻に実行します
時間毎	指定時間ごとに実行します
分ごと	指定分ごとに実行します

 ディスクアレイ上のデータの信頼性を高めるため、「アレイ同期化のスケジュール」を設定して定期的な一貫性チェックを行うことをお勧めします。
(「3.1.4 ディスクアレイの一貫性チェック (シンクロナイズ)」参照)

■ ディスク パラメータ

書き込みキャッシュを使用可能にする：(デフォルト：チェック無)

ハードディスクのライトキャッシュを有効にします。

S.M.A.R.Tチェックを使用可能にする：(デフォルト：チェック有)

ハードディスクのS.M.A.R.Tチェック機能を有効にします。

■ プリファレンス

開始の最小化：(デフォルト：チェック有)

FastCheck起動後タスクトレイにアイコン化します。

チェックしていない場合、FastCheck起動後画面に表示されます。

常に最前面に表示：(デフォルト：チェック有)

FastCheckを常に画面の最前面に表示します

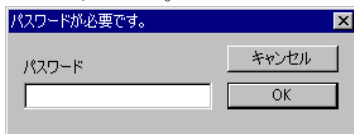
パスワードを使用可能にする：(デフォルト：チェック無)

パスワードを有効にします

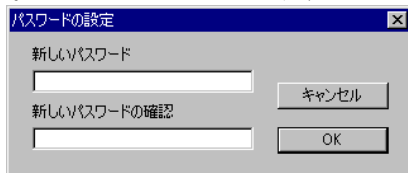
「変更」ボタン：

パスワードを設定／変更します

パスワードを有効にした場合、FastCheckを開く際、およびパスワードを変更する際に以下のウィンドウが表示されます。設定したパスワードを入力後「OK」をクリックしてください。



また、パスワードを設定／変更する場合は、以下のウィンドウが表示されます。2つのフィールドに同一のパスワードを入力し、「OK」ボタンをクリックしてください。設定したパスワードが有効になります



3.1.4 ディスクアレイの一貫性チェック (シンクロナイズ)

ディスクアレイの一貫性チェック(シンクロナイズ)は、ディスクアレイを構成する2台のハードディスク上のデータ一貫性(記録されているデータが信頼できるかどうか)を検査するための機能です。

一貫性チェック(シンクロナイズ)機能は、以下の2つの方法で実行できます。

1. ディスクアレイの一貫性チェックをすぐに実行

指定したディスクアレイに対して一貫性チェックを直ちに実行します。


「3.1.1 アレイメニュー」のポップアップメニューの項目を参照してください。


2. ディスクアレイの一貫性チェックを定期的に行

設定した間隔でディスクアレイの一貫性チェックを定期的に行います。

「3.1.3 オプションメニュー」の「アレイ同期化のスケジュール」の項を参照し、ディスクアレイの一貫性チェックの実行間隔、開始時間等を設定してください。

なお、ディスクアレイの一貫性チェックを定期的に行う場合、FastCheckが起動されていなくてもOS動作中に一貫性チェックが実行されます。

 ディスクアレイの一貫性チェックは、データ一貫性を検査だけでなく、ハードディスクの媒体エラーを自動修正する効果もあります。
「アレイ同期化のスケジュール」を設定して定期的な一貫性チェックを行うことをお勧めします。(「3.1.3 オプションメニュー」参照)

 一貫性チェックの結果、ディスクアレイを構成するハードディスク間にデータの不一致が検出された場合、記録されているデータが保証できません。
この場合、ディスクアレイを再初期化し、信頼できるバックアップデータを復元する必要があります。

3.2 FastTrak Service

FastTrak Service は、FastCheck が起動していない場合に、ディスクアレイの異常発生を OS のイベントログに通知するソフトウェアです。

FastTrak Service は OS 起動時に起動し、FastCheck が起動すると停止します。

第 4 章 ハードディスクの交換

構成するハードディスクの 1 台が故障してもディスクアレイは非冗長状態で稼働できますが、もう 1 台のハードディスクも故障するとディスクアレイへアクセス不能となりデータが失われます。したがって、ハードディスクの故障が検出された場合、できるだけ早期に新しいハードディスクと交換して、ディスクアレイを正常な状態に再構築する必要があります。

本章では、ハードディスクの交換手順について説明します。

4.1 ハードディスクの交換手順



警告

ハードディスクを交換する際は、安全のためパソコン本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後で行ってください。電源を入れたままハードディスクの交換を行うと、装置の故障・発煙などが発生する可能性があります、また感電の原因となります。

● 交換するための新しいハードディスクは、故障したハードディスクと同容量・同種類の、指定されたハードディスクをご用意ください。

● 本モデル付属の IDE ケーブル以外の IDE ケーブルを接続しないでください。

- ① OS 上で FastCheck Monitoring Utility の「アレイメニュー」(「3.1.1 アレイメニュー」参照)から、故障したハードディスクのチャンネル番号を確認します。
- ② OS のシャットダウンを行い、パソコン本体の電源を切断します。
- ③ 本体添付のハードウェアガイドを参照して、ハードディスクを交換します。交換の際に取り外したケーブル類が、交換前に取り付けられていた通りに正しく接続されていることを必ず確認してください。
- ④ パソコン本体の電源を入れます。
- ⑤ ディスクアレイの再構築を行います。
FastBuild Utility を起動し、再構築(Rebuild)を実施します。
詳細は、「2.3 ディスクアレイの再構築(Rebuild Array)」を参照してください。

F M Vシリーズ
IDE-RAID カード
取 扱 説 明 書

B5FY-0581-02 Z0-00

発 行 日 2001 年 4 月
発 行 責 任 富 士 通 株 式 会 社

- ・ 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- ・ 本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- ・ 無断転載を禁じます。

FUJITSU